

三木地区（石川県加賀市）

1. 三木地区の概要

(1) 地区特性

三木地区の人口、世帯数等について以下に示す。

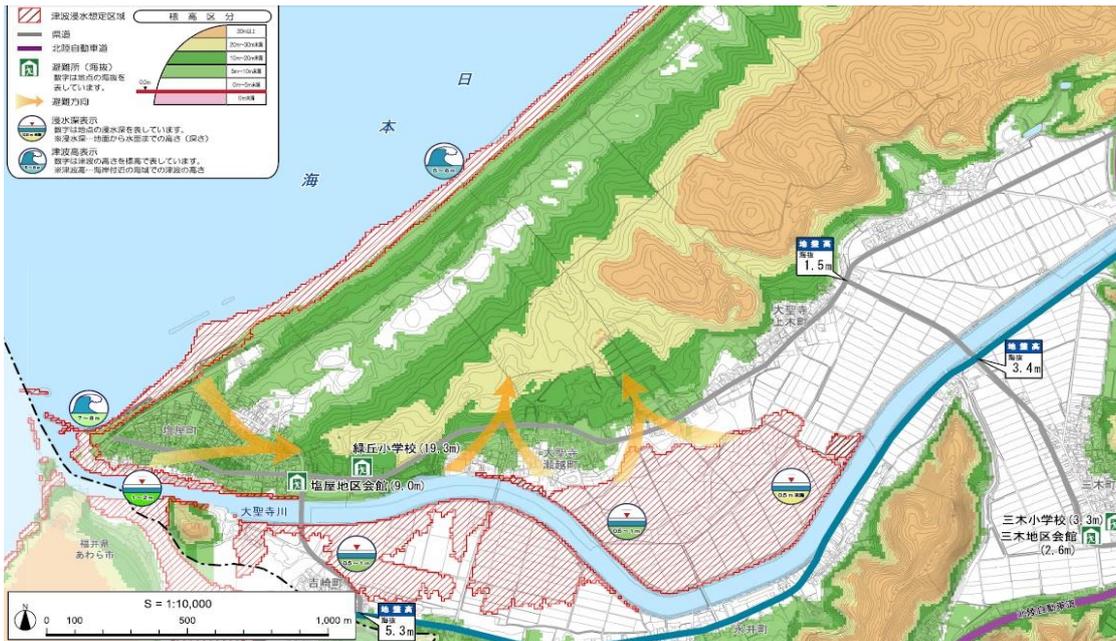
石川県の最西端に位置する地区

◎人口 1,636 人

◎世帯数 622 世帯

◎7町内会で構成

- 熊坂町、大同町、三木町、奥谷町、橘町、永井町、吉崎町（福井県境の町）



(2) 災害経験・想定災害

1948年の福井地震により多数の火災発生、建物全壊・半壊でほぼ全滅状態であった。

地震が発生した場合の沿岸部への津波を想定している。(想定津波が加賀側 8m、あわら側 2m と異なっている)

(3) これまでの取組

本事業がきっかけとなって、石川県側吉崎町と福井県側吉崎の住民が、共同で県境を越えた津波によるハザードマップの作成に取り組んだ。

2. 地区の課題及び地区防災計画策定の背景

本計画は、北陸震災等過去の大震災を鑑み、自助、共助及び公助が連携して初めて大規模広域災害後の災害対策が円滑に行えることから、地域コミュニティにおける共助による防災活動に重点をおいた地区防災計画の作成に向けて、ワークショップ等を開催した。

本地区の津波避難として一時避難所は、県境を越えた福井県側のあわら市立吉崎小学校への避難を予定している。そこで地区防災計画を策定するにあたり、県境を越えた取り組みが必要になる。そのため、石川県と福井県の両吉崎地区の方々に県を越えて協力関係をとり防災対策を進めるようワークショップを開催することになった。

ワークショップでは、両吉崎地区で津波の想定が大きく違っていたことが、明らかになった。これは、県境という見えない差を生み、知らないうち市民の皆さんの認識が違っており、災害時に混乱が生じ恐れがある。この課題を解決するには、両地区の皆さん全員で災害対策を共有し浸透すれば大きな力になるであろう。

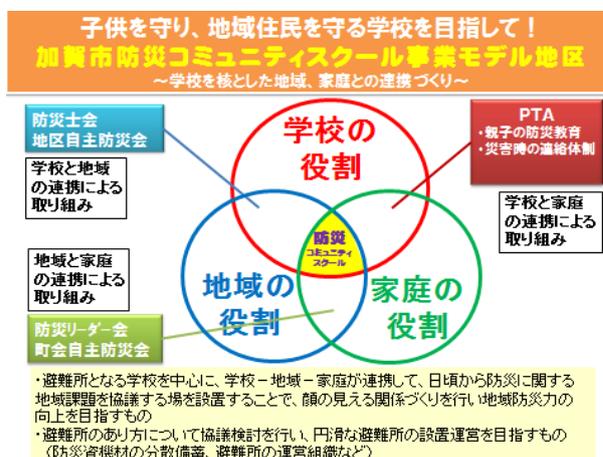
3. 県境を越えた津波による災害対策の取り組み

県境を越えた津波による災害対策の取り組みとして DIG によるハザードマップを作成した。ハザードマップは、石川県側の吉崎町と福井県側の吉崎の住民が共同で、DIG 方式により作成され、第 1 回ワークショップで作成された石川県側のみの地図と、第 2 回ワークショップで作成された県境を越えたハザードマップを作成することができた。その内容は、66 年前の当時に実際に体験した昭和 23 年 6 月 28 日発災の福井大地震の被災状況をはじめ、地盤の弱い所や避難ルートなどの記載を行うことができ、今後、地区防災計画を策定する上で非常に有益なものとなった。

また、県境を越えた第 2 回ワークショップの席上で、合同での訓練開催の予定などが協議され、市町や県レベルの調整では困難である県境を越えた取り組みを実現することができた。引き続き、ハザードマップを活用した合同防災訓練を実施するなど、県境を越えた防災活動が実施されることから、今後、地区防災計画の策定が期待できる。

(1) 加賀市防災コミュニティ・スクール推進事業について

加賀市では、平成 26 年度防災コミュニティ・スクール推進事業（H25 内閣府選出事例〈中部ブロック代表〉）のモデル地区として、三木地区を選出し、学校、地域、家庭が連携しながら、避難所となる学校を拠点として、防災に関する様々な協議を事前実施することにより、災害時には迅速かつ円滑に防災活動が実施されるよう取り組みを行った。



(2) ワークショップの開催

県境を越えたハザードマップを作成することができた過程を報告する。

1) 第1回ワークショップ<石川県側 加賀市吉崎町>

【日時】平成27年1月26日（月）

【参加】澤田内閣府アドバイザー、関西情報センター1名、加賀市防災協議会1名
三木地区3名、加賀市吉崎町11名、あわら市吉崎8名、加賀市3名、
あわら市1名 計29名

【会場】三木地区会館（石川県側）

【内容】加賀市吉崎町におけるDIG方式⁽¹⁾での防災ハザードマップ作成

石川県側の加賀市吉崎町で、これまでの加賀市の取り組みや今回の福井県側のあわら市吉崎と合同で開催されることとなった経緯について説明があり、早速、DIG方式でワークショップを行い、内閣府アドバイザーの澤田先生が作成した両県を跨ぐ地図を利用することで、県境を越えたハザードマップの作成を両方の住民が参画する形で実現することができた。



〔写真〕石川県側の吉崎町で県境を越えたハザードマップを作成開始した様子

また、石川県側と福井県側での地震が発生した場合の沿岸部への津波の到達高や到達時間が異なっていたことから、NHKや地元新聞に大々的に取り上げられ、住民の防災活動の後押しになった。

(1) DIG（災害図上訓練）は、地域に発生する災害を想定した上で、地図を用いて参加者とともに地域での想定被害や危険性を明示していく手法である。自主防災組織などの防災意識啓発を目的としたワークショップなどでもこの手法が用いられている。

2) 第2回ワークショップ<福井県側 あわら市吉崎>

【日時】平成27年3月2日(月) 19:00~20:30

【参加】澤田内閣府アドバイザー、三木地区2名、加賀市吉崎町11名、
あわら市吉崎16名、加賀市2名、あわら市1名 計33名

【会場】吉崎公民館(福井県側)

【内容】加賀市吉崎町におけるDIG方式での防災ハザードマップ作成

県境を越えて共同で作成した。はじめに、当時の吉崎の被害状況を澤田雅浩先生が準備された白地図をもとに概要を説明していただき、3つのテーブルで準備された白地図に、壊れたところ、大丈夫だったところ、板塀はどうなったのか、道は通れたのか、どこが一番安全なのか、どうやって避難していくのか、一時避難場所、二次避難場所、吉崎小学校への移動はどうしたらいいのかなどを話し合い、ハザードマップを作成した。

4. マップづくりのポイント

吉崎地区においては、県境をまたいでいることで加賀市吉崎地区およびあわら市吉崎地区を包含した白図がこれまで住民に提供されていなかった。そこで国土地理院の提供する基盤地図情報を活用し、1/1500の白図を今回のワークショップで用意したことで、両地区の住民がそれぞれ持つ知見を共有することができた。

加賀市吉崎地区では避難ルートや危険箇所等の把握がすでに行われていた。一方であわら市吉崎地区には昭和23年の福井地震の被害の記録、記憶が残されており、当時の被害状況に関する情報が把握されていた。両者の持つ情報を地図に媒介として共有することで、被害想定の違いからくる対応の相違を理解するだけでなく、これまでの災害履歴を踏まえより安全な対策を検討する契機となった。

地区住民主体で取り組むことで行政界をまたいだ活動へと歩を進めることができたのは、一つには共有できる地図の存在がある。どのように境界をまたいだ地図を提供することができるのかを検討しておく必要がある。

5. 成果及び今後のスケジュール

年度末ぎりぎりに、加賀市吉崎町区長の桶田さんをはじめ、あわら市吉崎の末富会長さんなど、地元の皆さんのご尽力により、県境を越えた住民手作りのハザードマップを完成させた。

県境を跨ぐ地域においては、津波をはじめ、各種災害の想定や訓練方法など、県境があることによって、様々な違いが発生しており、自然災害を推し量ることは大変難しいことであるが、人の防災意識に差が生じていることが最も危惧するところである。福井県側の津波想定が石川県と比べ低いこともあり、福井県側の区長会長がテレビの取材で「同じ地域であるにもかかわらず、石川県側の地域住民はいち早く逃げる訓練をしており、福井県

側の地域住民は何もせずにいることが問題であって、災害においては、共同で取り組む必要がある」とお話しされていたことが大変重要である。

この問題は石川県境と福井県境のみの問題として捉えるのではなく、他の地域でも様々な課題を見出すきっかけとなってほしい。福井地震から67年目、いつ起きるかもわからない、当時を知る人の災害状況を、いまを生きる人、後世に伝える記録を残す役目を担っている。

今後の課題として、合同の防災訓練を実施し、県境を越えた活動を住民主体で行うことで、住民によるハザードマップや地区防災計画の作成等について、県境を越えた取り組みを継続する事を考えている。